

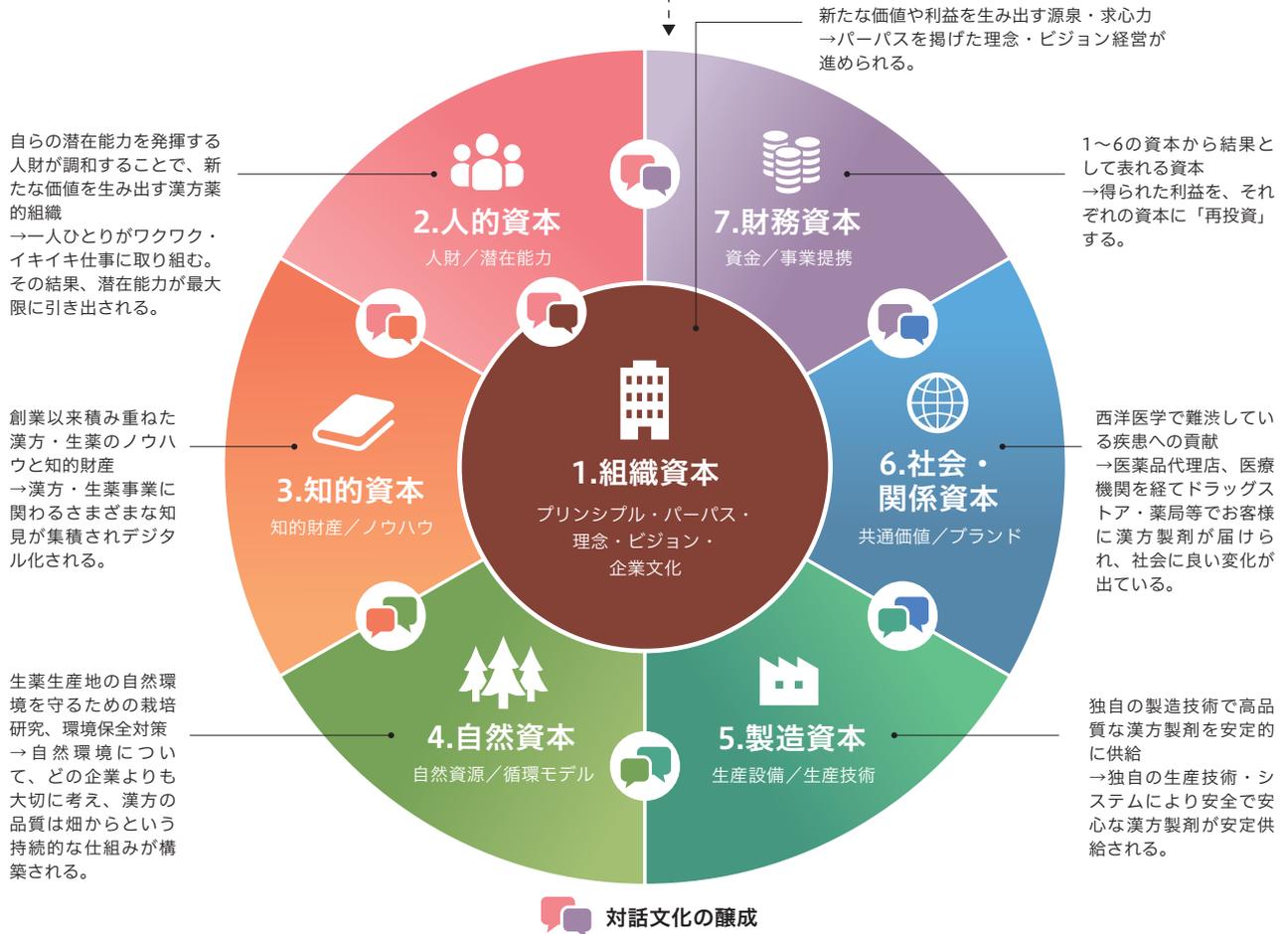
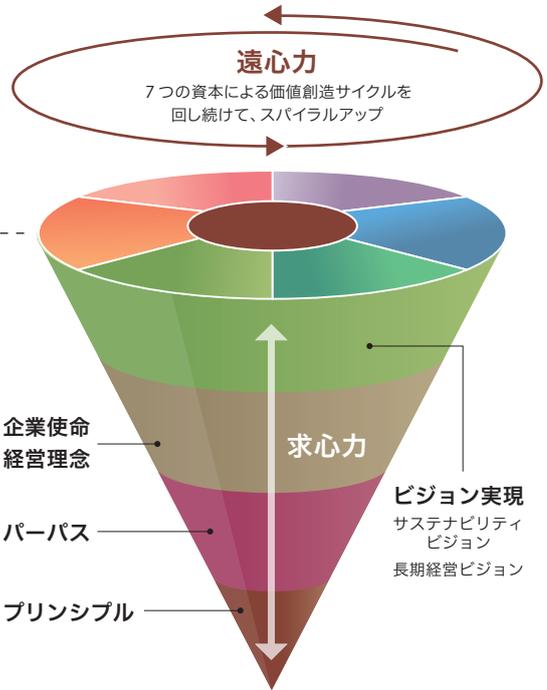
価値創造の循環サイクル

企業価値拡大の考え方

ツムラグループの製商品とサービスによる社会価値を創出するために、私たちは理念に基づく経営の中心に「組織資本*」を据えています。この組織資本を軸にして求心力を高めつつ、社員の自立的な行動の集積が大きな遠心力となることで、サステナビリティビジョン・長期経営ビジョンの実現を目指しています。

また、ビジョンや理念を日々の行動に反映させ、適切な判断ができる人財を育成しながら、協調・協働型の組織をつくることで、資本全体の好循環を生み出そうとしています。その手段として、働く目的と価値の創出に焦点を当てた対話を重ねるなど、理念の浸透活動を推進しています。この活動を通じて、社員が潜在能力を発現しやすい組織文化を維持しながら、世界に類を見ない漢方・中薬ビジネスにおいて、新たな道を切り拓く企業集団を目指しています。

*IIRC（国際統合報告評議会）が発行した「国際統合報告フレームワーク」の中には、組織固有の価値創造のあり方を検討する概念として「6つの資本」が提示されています。一方、当社グループでは7つ目の資本として「組織資本」を加えています。この資本は、私たち独自の考え方で、「複数の生業の組み合わせで構成されている漢方薬のように、固有の能力と個性を持った人々が多く集まり、目指すべき社会価値を創出するために調和している組織」を指しています



価値創造プロセス

2023年度の実績

1.組織資本

- 漢方薬的組織
- 創業**131**年
- 理念浸透サーベイ **4.02**点

2.人的資本

- 従業員数(連結) **4,138**名
- 一人あたり教育費(単体) **120**千円
- 障がい者雇用率 **2.50**%

3.知的資本

- 研究開発費 **8,288**百万円
- ツムラ生薬GACPIに基づく生薬トレーサビリティ体制
- ツムラ品質マネジメントシステムに基づく漢方製剤の均質性の確保
- 当社独自の研究パッケージ「KAMPOmics®」

4.自然資本

- エネルギー使用量 **2,164**TJ
- 水使用量 **2,151,950**t
水の再利用率(茨城・静岡・上海)平均 **57.4**%
- 産業廃棄物の再資源化率 **99.9**%(ツムラ単体)
- 原料生薬の調達先 中国約**90**%、日本・ラオス・その他約**10**%
- 自社管理圃場比率 **84.6**%

5.製造資本

- 選別加工・品質管理 日本**2**拠点/中国**2**拠点
- 製造工場 日本**2**拠点/中国**2**拠点
- 研究拠点 日本**1**拠点/中国**1**拠点
- 設備投資額 **18,352**百万円

6.社会・関係資本

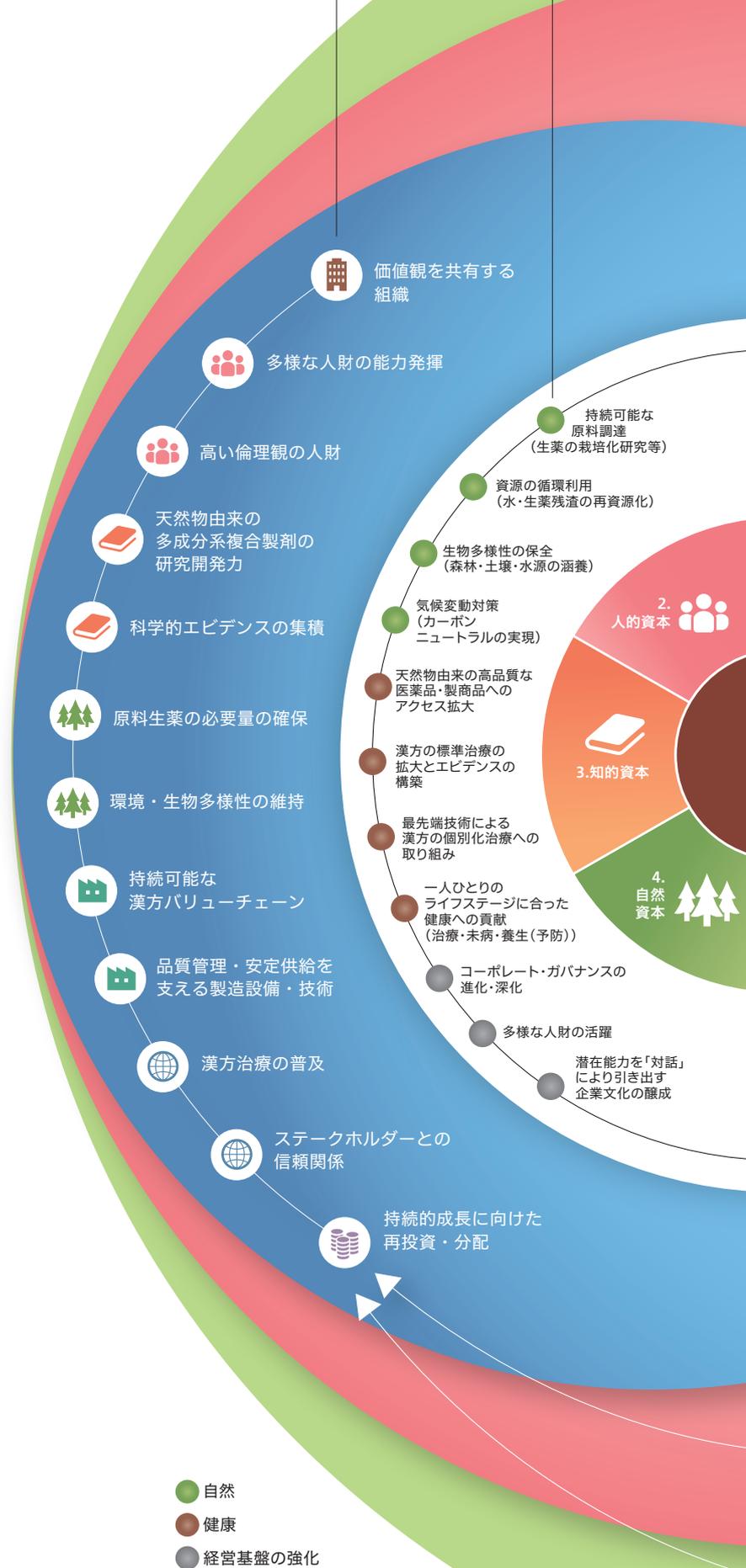
- 医療用漢方製剤10処方以上処方医師の比率 **39**%(約12.7万人)
- すべての大学医学部・医科大学での漢方医学教育の実施
- お客様相談窓口での相談受付件数 **35,017**件

7.財務資本

- 売上高 **150,845**百万円
- 営業利益 **20,017**百万円
- フリーキャッシュ・フロー **△13,743**百万円
- 総資産 **428,254**百万円
- 自己資本 **270,802**百万円

INPUT
投入資本

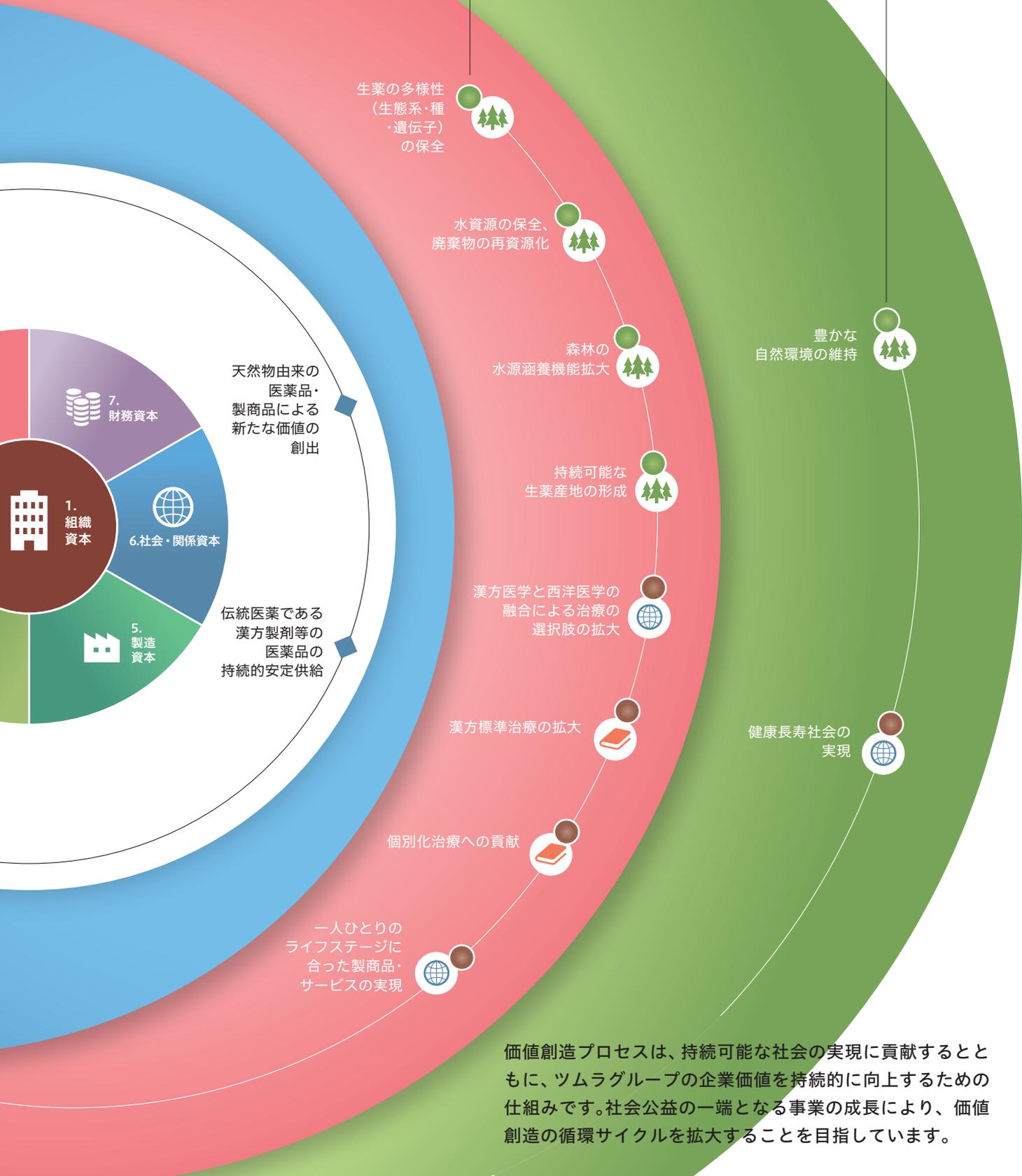
MATERIALITY
事業活動の重要課題



OUTPUT
事業活動の結果

OUTCOME
事業を通じた価値

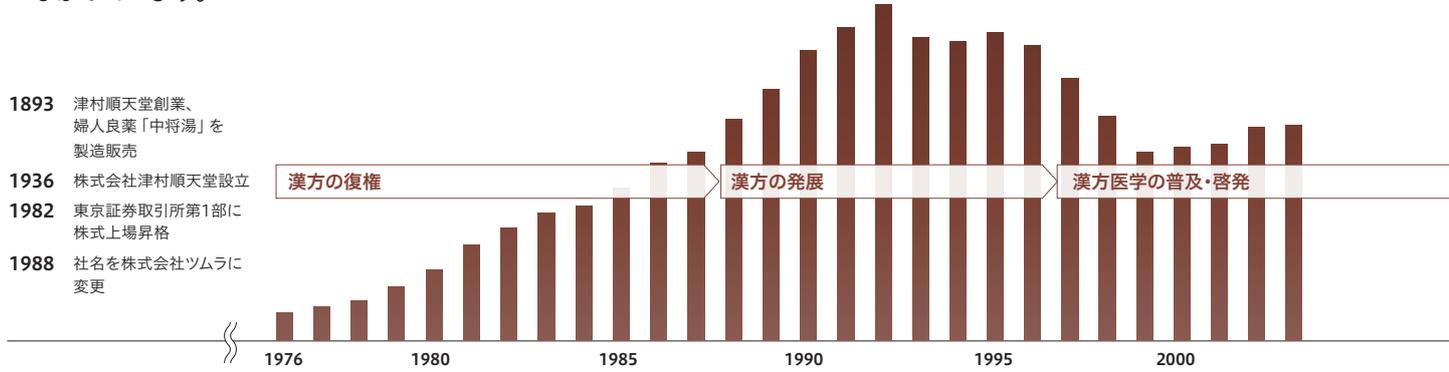
IMPACT
社会への影響



価値創造プロセスは、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、ツムラグループの企業価値を持続的に向上するための仕組みです。社会公益の一端となる事業の成長により、価値創造の循環サイクルを拡大することを目指しています。

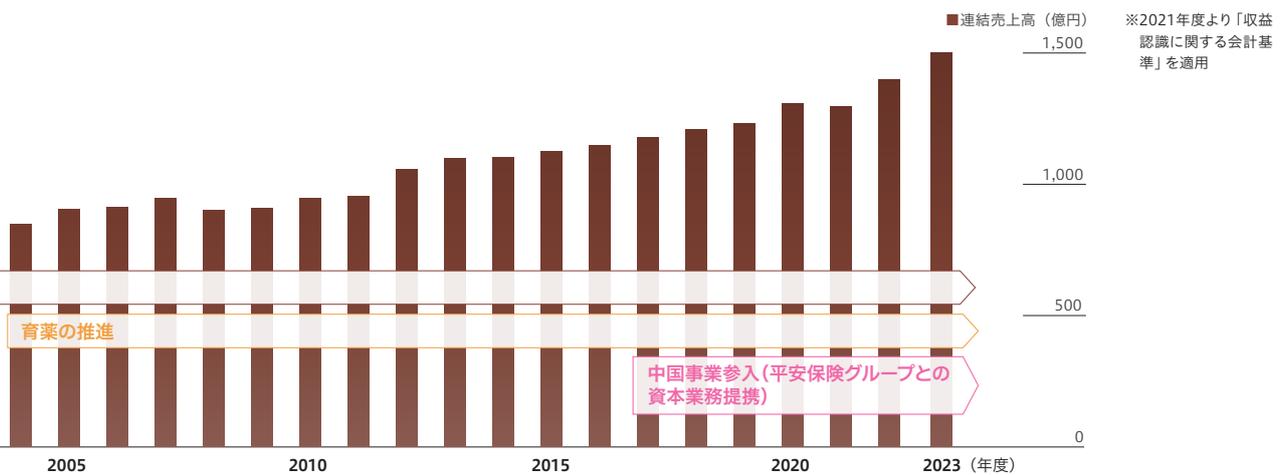
価値創造の基盤構築

ツムラグループは漢方医学と西洋医学の融合を目指し、医療用漢方製剤普及と科学的解明に努めてきました。その歩みは、漢方医学の伝統を守りながら、漢方薬を普及させるための革新を続けてきた歴史といっても過言ではありません。長年培ってきた漢方バリューチェーンこそが価値創造の基盤であり、「伝統と革新」の遂行を支える組織資本の蓄積につながっています。



漢方バリューチェーンの変革

研究開発	<p>1924 津村研究所、津村薬草園開設</p> 	<p>1926 津村研究所が『植物研究雑誌』発刊を引き継ぐ</p> 	<p>1991 漢方製剤8品目再評価指定を受け、二重盲検比較試験を実施</p>	<p>2001 米国における医薬品開発の拠点として TSUMURA USA, INC. を設立</p> 					
栽培・調達	<p>1973 中国政府指定の友好商社を経由して生薬購入開始</p>	<p>1978 2代重倉、原料生薬の安定供給確保の交渉のため、1回目の中国訪問</p> 	<p>1981 中国国営企業から生薬直接購入開始 中国土産畜産進出口総公司との「生薬長期供給契約」締結</p>	<p>1991 中国における原料生薬の調達拠点として深圳津村薬業を設立</p> 	<p>2007 生薬トレーサビリティの運用開始</p>	<p>2009 北海道における原料生薬の栽培、調達、調製加工、選別加工、保管拠点として夕張ツムラを設立</p>			
製造	<p>1964 静岡工場新設</p> 	<p>1983 茨城工場新設・研究所を同敷地内に移転</p> 	<p>1999 重金属試験法確立</p>	<p>2001 中国におけるエキス粉末(中間製品)の製造拠点として上海津村製薬を設立</p> 					
販売・啓発・普及	<p>1893 婦人良薬「中将湯」を製造販売</p>	<p>1976 ツムラ医療用漢方製剤33処方薬が薬価基準収載</p> 	<p>1987 薬価基準に追加収載され、129処方薬に</p>	<p>1996 小柴胡湯による間質性肺炎の副作用報道</p>	<p>2001 漢方メディカルシンポジウムの開催</p> 	<p>1974 医療用漢方製剤を発売</p>	<p>1991 医療用漢方製剤の売上1,000億円を突破</p>	<p>1996 MR認定制度が導入</p>	<p>1999 漢方医学セミナーが始まる</p>



価値創造の基盤

2004

研究開発方針を変更し、漢方・生薬に特化
漢方製剤のエビデンス構築による育薬の推進

2005

大建中湯がFDAに治験薬IND取得、臨床試験開始(TU-100)

2007

大建中湯の臨床的エビデンス確立を目的に「DKTフォーラム」を設立

2016

漢方製剤において、Growing処方を設定
『植物研究雑誌』創刊100周年



2017

TU-100の第II相臨床試験完了、POIの適応症への集中を発表

2018

当社独自の研究パッケージ(KAMPomics®)商標登録

2023

TU-100後期第II相臨床試験の患者登録を完了

エビデンスの集積による漢方治療の標準化

多成分系である漢方製剤の研究手法の確立

2010

ツムラ生薬GACPの制定、運用開始
ラオスにおける原料生薬の栽培、調達、調製加工、保管拠点としてLAO TSUMURA CO., LTD.を設立



2011

中国白山市政府と原料生薬の共同研究の協議書を締結

2012

原料生薬の調達価格の安定のため、「自社管理圃場」を拡大

2014

中国中医科学院と蒼朮(ソウジュツ)の共同研究契約に調印

2015

香港浸会大学との共同研究に関する協議書に調印

2016

自然環境の保護の観点から人参の畑地栽培を推進

2019

天津盛実百草中薬科技(現:平安津村薬業)と資本業務提携

ツムラ生薬GACP体制の確立

原料生薬を安定調達する仕組みの確立

2005

容器交換搬送ロボット導入(ロボット技術活用による省人化製造と24時間稼働の実現)

2007

「今年のロボット」大賞で産業用ロボットの優秀賞受賞

2013

西日本・東日本物流センター竣工

2018

中国におけるエキス粉末の製造拠点として天津津村製薬を設立



2020

茨城工場第3SD棟の全生産工程においてロボット技術を導入

2023

原料生薬の選別・製造工程の自動化の早期実現のためロビット社と資本業務提携

2023

AI技術を活用した生薬調合計画システム導入(生薬調合計画、生薬移送計画の最適化による生薬在庫の回転率向上)

全ロットにおける品質保証体制

全工程における自動化の実現

2004

日本全国の大学医学部・医科大学で漢方医学教育を実施

2007

認知症フォーラムに協賛開始



2016

高齢者、がん(支持療法)、女性を重点3領域として設定

2019

「医療用医薬品の販売情報提供ガイドライン」運用開始
メガWebセミナーなどe-プロモーション開始

2020

循環器領域におけるプレゼンス構築プロジェクトを開始

2023

ディテールインパクト(医師の情報認知件数)におけるe-プロモーションの比率が約50%に達する

漢方医学の啓発・普及

漢方医学と西洋医学の融合による治療法を提案